

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	小規模多機能居宅介護だからできる「ご利用者が自宅で生活する為にどのような支援が必要か」を考えた柔軟なサービス提供はもちろんの事、ご利用者の生活の質の向上を図るために、季節にあったイベントを行ったり、月に1度外出行事を行なっています。また毎月バイキングでの食事を取り入れ、身体を維持するために、健康状態を維持するための食生活を大切に、食べる楽しさ作りにこだわりを持ってバイキングを行っている。交流を含めた他部門との全体行事、地域への外出も実地しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 鯖江きらめきハウス	管理者	内村 真人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	4人	人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員間のミーティングの時間を作り利用者の状態変化、家族からの要望を共有するようになっていく。 ミーティングの中で利用者の「～したい」という声をたくさん聴き、実現できるようにする。 	ミーティングを毎日行うようにし、日々の状態変化を共有することが出来た。また通い利用時に「～したい」の聴き取りを行い、いくつか実現していく事が出来た。今後は「～したい」の聴き取りが難しい方への対応なども考えていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 資料見ている限りではできていると思う。 今回初めて参加したのでよく分からない。 職員が何人いるのかが分からない。常勤スタッフとは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が利用者の趣味や関心を日常の会話の中から探り「～したい」を引き出し実現していく。 「～したい」の実現に向け何が必要かどのようにしていくのかをミーティングで話し合っていく。 ミーティングを継続し利用者の些細な変化にも気づくようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 活動写真の掲載は今後も継続して行う。 次回より家族会を部門ごとで行うことでご家族が更に参加しやすい環境を作っていく。 	毎月の活動写真を廊下に掲載し利用者の方と一緒に眺め話をする事が出来た。今年度家族会は全体での開催となった為、小規模で行うことができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> あまり中に入ったことがないので分からない。 今日入った感じ臭いなど感じなかった。 活動写真とは？壁に飾ってあるものと説明する。その後見学に行き「こんなにいい顔してるんですね」と言われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族会や祭りを通してきらめきに入っていたり機会を作っていく。 イベントだけではなく、いつでも入りやすい環境を作っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> サロンを通して地域の方と交流ができるように今後も呼びかけを行う。またサロンに利用者も一緒に参加する。 きらめき応援団に登録していた 	毎月のサロンに利用者も一緒に参加することが出来た。その中で昔のお友達の方もおり交流することが出来た。今年度はきらめき応援団に登録して頂ける方が増	<ul style="list-style-type: none"> 送迎の際など職員の方明るくていいです。 サロンなどに参加させてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もサロンを通して地域の方と交流ができるように呼びかけを行う。またサロンに利用者も一緒に参加する。 地域行事に職員が積極的に参加

	だき、ご利用者と地域の方同士が日頃からかかわりが持てるように声をかけていく。	えた。		しきらめきの事を知ってもらおう。またご利用者と地域の方同士が日頃から関りが持てるように利用者も一緒に地域行事に参加をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 毎月決まった行事だけではなく利用者の「～したい」という要望に寄り添えるように職員ミーティングの中で利用者の「～したい」の声をたくさん聴き実現できるようにする。 	月に1回の外出を行うことが出来た。外出の内容を利用者の方にどこに行きたいか？何がしたいか？など聴き取り、それを実現していくことが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> 外出も楽しみにしているので、今後も継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と職員が昼食やおやつを一緒にとり、会話の中から「～したい、～行きたい」と聴く取り組みを行っていく。 皆同じところへ外出するのではなく、興味のあることに少人数で出かけていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議資料のページ番号は2019年度より挿入していく。 ご家族や地域の方の意見を共有しケア、サービスにつなげていくために管理者だけでなく他の職員も参加できるようにしていく。 	ページ番号はすぐに挿入していくことが出来た。運営推進会議では家族・地域の方の意見を聴き参考にすることが出来た。ただ、小規模は何をしているところなのかという理解を深めることができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から1度も運営推進会議に参加できてないため分りません。 運進が平日開催になった為仕事と重なり参加できなかった。 参加できないため議事録を確認しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の日程を参加しやすい日に設定し直す。 今年度もご家族や地域の方の意見を共有しケア、サービスにつなげていくために管理者だけでなく他の職員も参加できるようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 災害種類(火災、自身、水害)ごとに地域と事業所のかかわり方を運営推進会議において確認しておく。 	3月に再度防火訓練予定なので地域とも共同して実施していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 車イスの方や認知症の方もいるので、誘導するのは大変だなと思います。 地域としては地域の指定の場所への避難を声掛けしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災訓練にも参加しどのように非難するといったのシミュレーションをする。 運営推進会議時に訓練を行ない家族の方や地域の方にも参加の呼びかけを行なう。